

1

3年間の計画

	目標	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	<p>保幼小中が一体となり、「つながり」を深める。</p> <p><b>Plan</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>合同授業研で教科や教科外(支援・養護)部会の実施</li> <li>月1回の小中担当者会の実施</li> </ul>	<p>H29年度の成果をもとに、各校の交流を深め、それぞれの園・学校で実践する。[生活面も含む]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>月1回の小中担当者会の実施</li> <li>合同授業研究会の実施</li> </ul> <p><b>Do</b></p> <p>(掲示物・カリキュラム・連携カリキュラムなど。)</p>	<p>H29年度・H30年度の成果をもとに、目標実現にむけて、実践等の交流を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>月1回の小中担当者会の実施</li> <li>合同授業研究会の実施</li> </ul> <p><b>See</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題を把握し、改善していく。</li> </ul>	
確かな学力の育成	<p><b>学力実態把握とプラン作成</b></p> <p><b>確かな学力の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上委員会の組織化</li> <li>学力・学習状況調査、学校教育自己診断等の結果、授業等からの学力実態の分析と共通理解</li> <li>授業改善                     <ul style="list-style-type: none"> <li>「主体的・対話的で深い学び」校内公開授業研究会</li> <li>パワーアップ研修</li> <li>全授業者授業公開</li> <li>学力向上研修会</li> </ul> </li> <li>外国語活動指導方法研究                     <ul style="list-style-type: none"> <li>全学年モジュール活動</li> <li>公開授業研究会</li> </ul> </li> </ul> <p><b>基礎基本の徹底</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学力課題の共通理解</li> <li>児童一人ひとりのつまずき把握と個に応じた指導</li> <li>個に応じた学習支援                     <ul style="list-style-type: none"> <li>学習サポーター会議</li> </ul> </li> </ul> <p><b>学習意欲の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善                     <ul style="list-style-type: none"> <li>つきたい力を明確にした授業</li> <li>認め合う学習集団づくり</li> </ul> </li> <li>自己肯定感・自己有用感の向上                     <ul style="list-style-type: none"> <li>異年齢活動</li> </ul> </li> <li>ICT活用</li> </ul>	<p><b>取組みの検証と見直し</b></p> <p><b>確かな学力の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上委員会の活性化</li> <li>学力・学習状況調査結果、授業等からの成果と課題の検証</li> <li>授業改善                     <ul style="list-style-type: none"> <li>「主体的・対話的で深い学び」校内公開授業研究会</li> <li>パワーアップ研修</li> <li>全授業者授業公開</li> <li>学力向上研修会</li> </ul> </li> <li>外国語活動指導方法研究会                     <ul style="list-style-type: none"> <li>年5回の公開授業研究会</li> </ul> </li> </ul> <p><b>基礎基本の徹底</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学力課題の共通理解</li> <li>個に応じた学習支援</li> <li>書く力の育成</li> </ul> <p><b>学習意欲の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善                     <ul style="list-style-type: none"> <li>つきたい力を明確にした授業</li> <li>認め合う学習集団づくり</li> </ul> </li> <li>自己肯定感・自己有用感の向上                     <ul style="list-style-type: none"> <li>異年齢活動</li> </ul> </li> <li>ICT活用</li> </ul>	<p><b>総括と次期に向けて</b></p> <p><b>確かな学力の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学力・学習状況調査結果、授業等からの3か年の成果と課題の検証</li> <li>授業改善                     <ul style="list-style-type: none"> <li>「主体的・対話的で深い学び」校内公開授業研究会</li> <li>パワーアップ研修</li> <li>授業公開</li> <li>学力向上研修会</li> </ul> </li> <li>外国語活動指導方法研究会                     <ul style="list-style-type: none"> <li>年5回の公開授業研究会</li> </ul> </li> </ul> <p><b>基礎基本の徹底</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学力課題の共通理解</li> <li>個に応じた学習支援</li> <li>書く力の育成</li> </ul> <p><b>学習意欲の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善                     <ul style="list-style-type: none"> <li>つきたい力を明確にした授業</li> <li>認め合う学習集団づくり</li> </ul> </li> <li>自己肯定感・自己有用感の向上                     <ul style="list-style-type: none"> <li>異年齢活動</li> </ul> </li> <li>ICT活用</li> </ul>	

豊かな人間性を育む	自分と他の人の大切さを認め、豊かな人間関係を結ぶ児童の育成	<p><b>生徒指導</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いじめを含めた学校生活の点検 生活アンケート（年3回）</li> <li>児童の課題を把握し、課題解決に向けた取組みを計画 学校教育自己診断 児童会活動（縦割り活動）</li> </ul> <p><b>人権教育</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人権を大切にしたい学級づくり 児童実態交流会</li> <li>人権意識を高める授業づくり 校内公開授業研究会</li> <li>人権教育参観授業（年1回）</li> <li>「多文化共生」を柱としたカリキュラムの再編成と実践</li> </ul> <p><b>道徳教育</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業づくり（評価）の研究 校内研修会 公開授業・研究授業</li> </ul>	<p><b>生徒指導</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>成果と課題の検証と、課題解決に向けた取組み</li> <li>いじめを含めた学校生活の点検 生活アンケート（年3回）</li> <li>児童活動の活性化</li> <li>縦割り活動</li> </ul> <p><b>人権教育</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校区人権と連携した校内公開授業研究会の実施、及び、授業改善</li> <li>人権教育参観授業（年1回）</li> <li>「集団づくり」を柱としたカリキュラムの再編成と、児童の実態を踏まえての取組みの実践</li> </ul> <p><b>道徳教育</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新カリキュラム作成</li> <li>授業改善 公開授業・研究授業</li> </ul>	<p><b>生徒指導</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎学期生活アンケートを実施し、いじめを含めた、児童の学校生活についての点検</li> <li>H29、H30 年度の取組みを踏まえ、活動の成果と課題についての検討</li> <li>児童活動の活性化</li> <li>縦割り活動</li> </ul> <p><b>人権教育</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校区人権と連携した校内公開授業研究会の実施、及び、授業改善</li> <li>研究授業の実施、及び、授業改善の取組み</li> <li>人権教育参観授業（年1回）</li> <li>「集団作り」を柱にしたカリキュラムの再編成と実践</li> </ul> <p><b>道徳教育</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間カリキュラム見直し</li> <li>授業改善 公開授業・研究授業</li> </ul>
	健康・体力の増進	生きる力を支える体力の育成	<p><b>体力実態の把握</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>低学年を含めたスポーツテストの実施</li> <li>なわとび検定、マラソン大会での記録測定</li> </ul> <p><b>体力づくりの取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>茨木っ子運動</li> <li>異年齢体力づくり</li> <li>大なわ朝会</li> <li>冬季体力づくり</li> </ul> <p><b>運動が好きと思う子どもの育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>異年齢体力づくりで教え、教わる関係を通して、運動の楽しさを実感する取組み</li> <li>身体づくり運動についての職員研修の実施と環境整備</li> </ul>	<p><b>体力実態の把握</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全学年スポーツテスト実施</li> <li>スポーツテストの結果分析による成果と課題の共通理解</li> <li>なわとび検定、マラソン大会での記録測定</li> </ul> <p><b>体力づくりの取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>茨木っ子運動</li> <li>授業カリキュラムの見直し</li> <li>異年齢体力づくり</li> <li>大なわ朝会</li> <li>冬季体力づくり</li> </ul> <p><b>運動が好きと思う子どもの育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>異年齢体力づくりで教え、教わる関係を通して、運動の楽しさを実感する取組み</li> <li>日常生活を通して、楽しみながら体を動かすことができる取組みの工夫</li> <li>身体づくり運動の研修会の実施と環境整備</li> </ul>
支援教育の充実				

## 2 今年度の結果と取組みについて

### (1) 全国学力・学習状況調査

#### ○●国語●○

##### 国語

(領域ごと)

①話すこと・聞くこと

概ね良好な結果であった。

②書くこと

概ね良好な結果であった。

③読むこと

概ね良好な結果であった。

④言語事項

やや課題が残る結果であった。

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった。

②短答式

やや課題が残る結果であった。

③記述式

概ね良好な結果であった。

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問

3ー 豊職人への【インタビューの様子】の「ア」に入る、

自分の理解が正しいかを確認する質問として適切なものを選択する

- ・もっとも正答率の低かった設問

1四1ウ

公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の\_\_\_\_部ウを漢字を使って書き直す。

(かんしんをもってもらいたい。)

- ・もっとも無解答率の高かった設問

1四1イ

公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の\_\_\_\_部イを、漢字を使って書き直す。

(友達にかぎらず)

- ・無解答が無かった設問

1ー 公衆電話について調べたことを【報告する文章】で〈資料2〉と〈資料3〉をそれぞれどのような目的で用いているか、適切なものを選択する。

##### 分析

国語は、全般的に概ね良好な結果であった。全国と比べると「話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする」や「目的に応じて、質問を工夫する」では、良好な結果がみられる。このように相手を意識し、他者を理解しながら話を聞くことや、質問することができるのは、本校の努力目標である「お互いを認め合い、自信を持って表現できる子どもの育成」を職員が意識して教育活動を行った成果が表れていると考える。今後も、校内研修や公開授業などを通して、教職員が同じ目標をもって指導することができるように研究を行っていきたい。一方、全国的な傾向と同じく「漢字を文の中で正しく使う」では課題が見られた。文章に即した正しい漢字を同音異義語に注意して書くことが難しいようだ。国語に限らず、日々のノート指導や作文指導等でも細やかな指導を行うことが重要だと考える。また、「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」でも課題が見られた。昨年度に引き続き、文章を要約する、主語を明確にして文を書く、目的や意図に応じ必要な内容を整理して書くなど「書くこと」への取組みに重点を置く必要があると考える。

## ○●算数●○

### 算数A

(領域ごと)

- ① 数と計算  
概ね良好な結果であった。
- ② 量と測定  
良好な結果であった。
- ③ 図形  
概ね良好な結果であった。
- ④ 数量関係  
概ね良好な結果であった。

(問題形式)

- ① 選択式  
概ね良好な結果であった。
- ② 短答式  
概ね良好な結果であった。
- ③ 記述式  
良好な結果であった。

(無解答率)

概ね良好な結果であった。

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問  
2(1) 棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができる。
- ・もっとも正答率の低かった設問  
3(2) 示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる。
- ・もっとも無解答率の高かった設問  
3(2) 示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる。
- ・無解答が無かった設問  
1(1) 台形について理解している。  
1(2) 図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成することができる。  
2(1) 棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることができる。

### 分析

算数は、概ね良好な結果である。これは、3年・4年の習熟度別少人数指導、学習サポーターの入り込み支援や教職員同士の児童実態理解や指導方法の連携により、個に応じた指導、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ってきた結果が表れていると考える。また、全国平均と比較すると、「量と測定」での記述式の問題では良好な結果が見られた。無解答率も全国と比べて下がっていることから、ペア活動やグループ活動等の学びあい活動を重視したり、問題解決的な授業を進めてきたりしたことにより、自分で考え表現する力の育成の点で成果が上がっていると考える。だが、記述式の無解答率も低くないことから、解法がわからない問題に対して粘り強く解こうとすることができないため、人に与えられたものではなく、自分で目標を定めてそれに向かって努力していける場を作るために、小さな目標を設定して達成する経験を重ねていきたい。

## ○●経年比較●○

### 全体的な傾向についての分析

- 各年度によつての差はあるが、国語算数とも全国平均を基準とすると平均正答率は概ね良好な状態が続いている。
- 算数では、全領域が全国平均を上回っている。習熟度別少人数指導や学習サポーターの積極的な活用、問題解決を中心とした授業づくりや、学びあい活動を重点化した成果が表れていると捉えることができる。

### 学力高位層と学力低位層、エンパワー(EP)層についての分析

- 国語では、年度によつて差はあるものの学力高位層が減り、学力低位層が増加傾向にある。漢字などの基礎学力をつける学習や相手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをもつ学習が必要不可欠であると考ええる。
- 算数は前年度より EP 層の減少傾向が見られた上、全国平均と比べると EP 層の割合が非常に低い。引き続ききめ細やかな指導を行い、学力の底上げを図っていききたい。

## ○●取組み●○

### 学力向上に関する取組み

#### ① 授業改善

- 学び合う活動を取り入れた、「一人も見捨てない」授業づくり  
(ペアやグループ、全体での話し合い活動などを通して意見を交流することで学びを深める)
- 児童の主体的な学びを促す授業づくり
- 全学年校内公開授業研究会実施
- 校内公開授業実施
- パワーアップ研修会(専門的な教育技術の共有化)
- 3、4年算数習熟度別少人数指導の充実

#### ② 基礎学力の向上

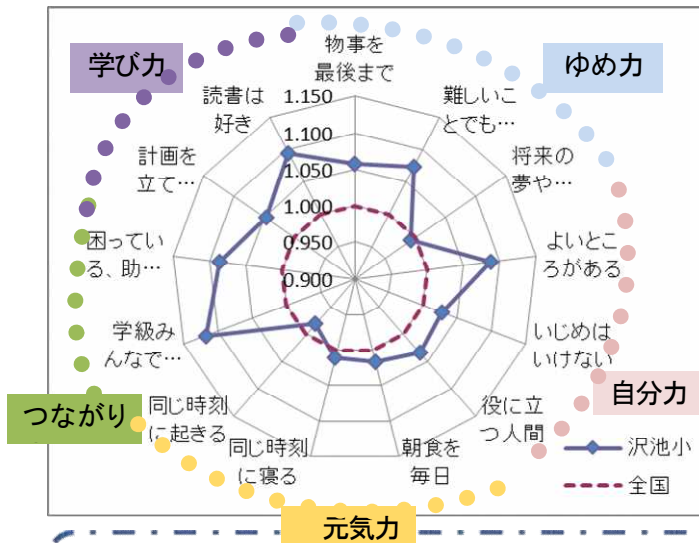
- 「漢字学習」「ことばあつめ」等の取組み
- 読書好きな児童を増やすための取組み(かたつむり・図書館支援員・図書委員会の活動)
- 学校図書館支援員と連携した学校図書館の効果的活用(蔵書・配架の工夫)
- 図書室使用などを通して読書の機会を設け、読解力や書くための前段階としての個人で考える力を養う。

#### ③ 全校での取組み

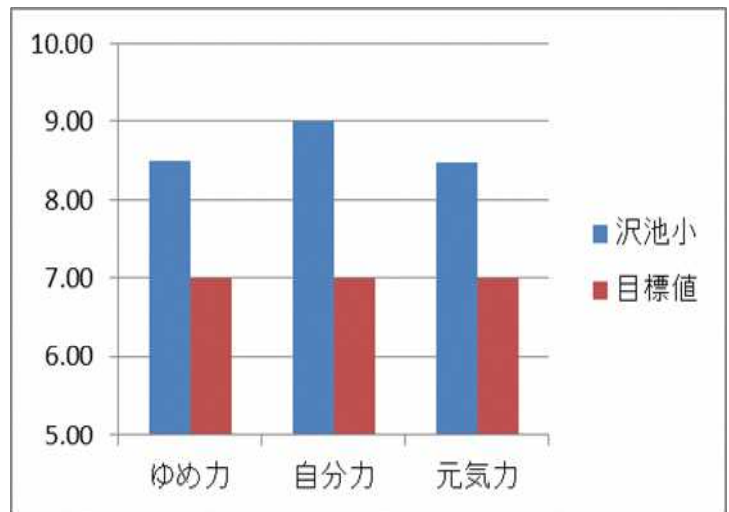
- 学習サポーターとの丁寧な連携、習熟度別少人数学習などを通して個に応じた支援、指導を充実させる。
- 学び合える集団づくりをすすめるために、自分も他人も大切に思う気持ちを養うことを重視する。
- 異学年交流や異年齢活動の中で、子どもたちのコミュニケーション力や人と関わる力、自己有用感などを高める。
- これまで継続してきた学校行事を大切に、ねらいを明確にした計画的な行事の取組みで、子どもたちに達成感を持たせ、集団の高まりや個人の成長を促す。
- 英語教育の継続した公開授業研究会や研修会を実施し、全学年で外国語活動の授業やモジュール学習に取り組む。

# ○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は13項目、目標値との比較(棒グラフ)は、3項目とも実施した『ゆめ力』『自分力』と『元気力』のみとなっています。

## 分析

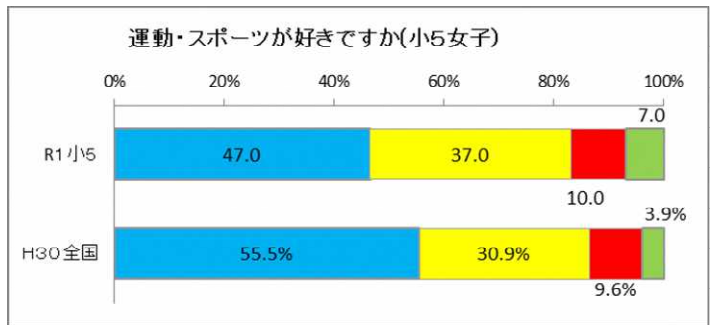
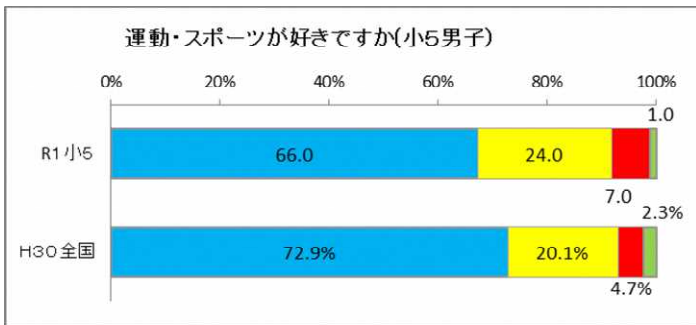
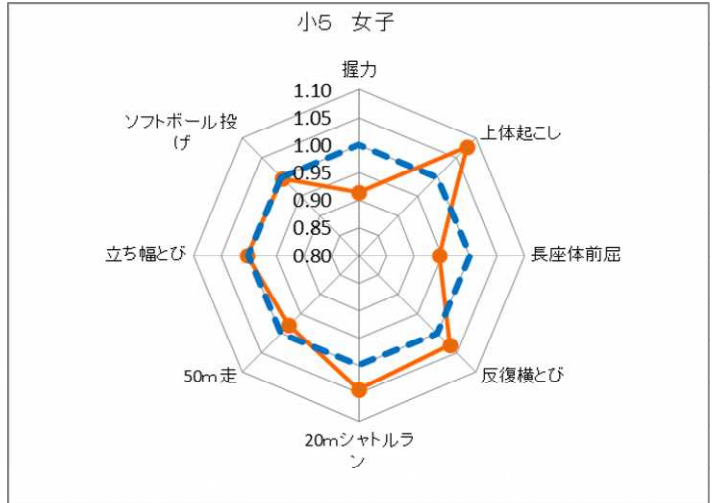
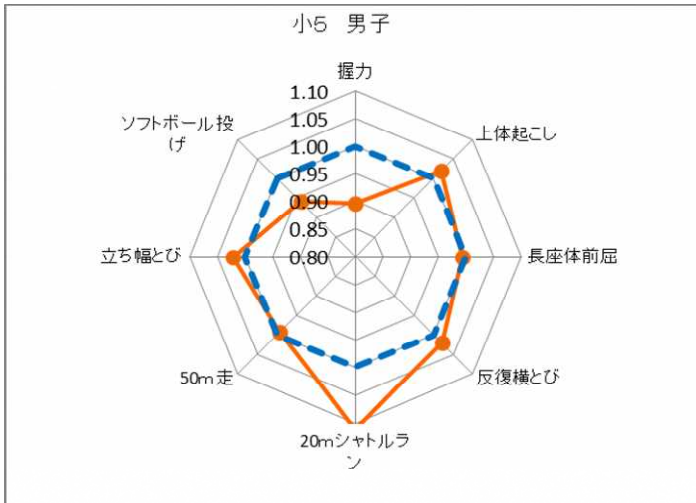
- ・「自分には、よいところがあると思いますか。」の項目が全国平均を上回っている。委員会活動や異学年交流を目的とした縦割りの活動を通じて、学年枠を越えた関わりの中で自分が必要とされていると感じる場を多く経験することで自己肯定感が高められていると考える。また、人権教育で、自分を見つめ、伝える活動も実を結んでいると考える。一方「将来の夢や目標を持っていますか。」の項目では昨年度を下回っているため、児童一人ひとりが責任をもち目標を定め計画を持って活動することができるようにしていく必要があると捉えている。
- ・いじめや規範意識に関する項目においても、取組みの成果が表れている。
- ・毎日の朝食や、起床、就寝時間などの項目も全国と比べ良好な結果である。地域的に生活基盤が整えられ、学校と家庭の連携が図られていると考える。
- ・「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたい。」と答えている児童が全国平均を上回っている。このように外国に発信したいと思えるのは、国際理解教育の取組みや、2年間継続している英語教育研究を柱とした指導方法研究の推進の成果であると考えられる。

## 取組み

- ・キャリア教育の観点から多様な職種の社会人による出前授業をカリキュラムに組み込んでいく。
- ・学校図書館支援員と連携し、学校図書館を積極的に活用することや、かたつむり(地域ボランティア)による読み聞かせを通して、本に興味を持たせ、読書習慣をつけさせる。
- ・図書だよりを発行し、読書活動の重要性や図書情報を知らせ、読書に取り組む端緒とする。
- ・自分力・元気力・ゆめ力を育むために、自分を出すことのできる学校集団作りを意識していく。学校行事などで、学級集団力を高め、子ども同士がつながることができるように支援していく。縦割りの活動・委員会・クラブ活動・地区児童会などの異学年交流を通して、人の役に立つ経験を増やし、自己肯定感を高めていく。
- ・自分を大切に、他人を大切に思う気持ちを養う活動や実践を通して、人権感覚豊かな児童を育てる。
- ・道徳教育を通じて、引き続き規範意識の向上を図る。
- ・養護教諭により定期的に生活習慣の大切さを学習する機会を設ける。また、保健だよりを発行し、家庭への働きかけも行う。
- ・道徳教育や保護者、地域との連携を通じて、児童の地域への関わりを増やすよう働きかける。
- ・栄養教諭中心に、食育の取組みをより一層充実させていく。

## (2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

### ○●体力●○



### 分析

- 立ち幅跳び、上体起こし、反復横跳び、20m シャトルランの項目において、男女ともに全国の値を上回っている。体育の授業、縦割り体力づくりや休み時間における遊びを通じて、いろいろな動きを取り入れ積み重ねてきた成果であると考えられる。茨木っ子運動をはじめ、継続した取組みが子どもたちの力に大きく繋がっている。
- 握力、ソフトボール投げにおいて課題が見られる。普段の遊びの中でボールを投げたり、固定遊具で遊んだりすることが少なくなっており、強く握る機会が減っていることがつながっていると考ええる。体育の授業づくりを行う上で、本校の課題を意識した継続的な取組みが、解決への一歩になると考える。
- 内容ごとの全国比に大きな偏りが表れたことから、体育の授業では様々な内容領域を偏りなく網羅する必要がある。学校内外で様々な運動を楽しんだり、習慣づけたりするように、学校と家庭の連携を図っていくことも必要である。
- 運動・スポーツが好き・やや好きと答える児童の割合が、男女ともに全国と比べてやや低い。運動に対して、苦手意識を持つ児童が多いと考えられるため、体を動かすことの楽しさに気づき、誰もが進んで運動することのできる環境づくりが必要である。
- 運動の得意・不得意に関係なく、これまで以上に一人ひとりが楽しみながら主体的に活動できるよう講習会や研究を行い、授業改善を進めカリキュラムの検討も行っていく。

### 取組み

- 体力作りの活動(縦割り体力づくり、冬季体力づくり)など学校全体で協力して、体力をつける取組みを行っている。
- 柔軟性の向上を図り、体幹を鍛えるため、体育の授業で茨木っ子運動を継続的に実施する。
- 運動能力の向上はもちろんだが、一人ひとりが楽しみながら活動できる授業づくりについて、体育の授業改善を推める。
- 調査結果からみられる課題解決に向けて、パワーアップ研修会を計画的に行い、授業力向上につなげる。
- 児童が運動に進んで取り組めるよう、教職員が意識し、休み時間の外遊びを各学級・学年で推める。